



発行所 高知市丸の内1丁目3番30号
全国林野関連労働組合 四国地方本部
TEL.821-2238
発行責任者 荻口竜一

分會委員長 書記長會議

地本・分會の取り組みを意思統一

各種課題の解消に向け取り組む

6月3日、高知市において「分會委員長・書記長會議」を開催し、①2024年度予算概算要求、組織・定員要求、2023年人事院勧告等に向けた要求書の提出と労使交渉等の取り組み、②組織強化に向けた取り組み、③森林労連共済の加入促進及び課題等への対応、④林野労組全国大会等、地本大会に向けた対応など、本部・地本からの指令・指示に基づく取り組みについて議論・意思統一を図りました。

はじめに、梶原地本執行委員長からは、「組織強化に向け、組合員との日常的

な関わりを深めるとともに、引き続き、無所属者の林野労組への組織化に向けて取



予算概算要求、組織・定員要求、組織態勢など地本・分會段階の取り組みについて意思統一を図った

窓口メモ

◇2024年度林野庁共済組合職員の暫定再任用に関する意向調査の実施について(5/15)
◇請負事業者等の労働災害防止対策の推進について(5/17)

◇「第14次労働災害防止計画」を踏まえた労働災害防止の取り組みについて(5/17)
◇国家公務員の定年引上げについて(5/22)
◇2023年度国家公務員安全週間の実施について(6/1)

◇2023年6月期の期末手当、勤勉手当について(職員周知)(6/1)
◇公務災害の発生状況(5月期)について(6/7)
◇早期退職募集制度及び再就職支援について(6/8)

◇定年引上げ対象者に対する情報提供・意思確認の実施について(今年度59歳に達する職員(定年62歳対象者)への意思確認)(6/13)
◇GSS端末への移行に向けた対応について(6/16)

2023年人事院勧告に向けた取り組み

本部は、公務員連絡会の「2023年勤期の取り組み方針」に基づき、林野庁に対しては、「人勤期における要求書」を提出し交渉を進めるとしています。

地本においては、分會段階での交渉の実施などを踏まえ、局・署(所)の事業実行体制の確保、国有林の現場管理(境界管理、林道管理、各種調査業務)に係る

具体的な対策、非常勤職員の雇用予算の確保など、地本交渉を強化していくこととして

本部は、公務員連絡会の「2023年勤期の取り組み方針」に基づき、林野庁に対しては、「人勤期における要求書」を提出し交渉を進めるとしています。

また、2023年度新規採用者の林野労組への組織化をはじめとする組織化対策に地本・分會間で連携し、全員組織化を図る取り組みを追求していくことを確認しました。

また、2024年4月以降の新たな地方推進体制や、マイカー共済の次期制度改定(2025年4月を目途)等の検討が進められていることから、今後の地方推進体制、保障制度の改定にあたっては、森林労連共済に加入する組合員からの要望を踏まえた制度改定等を行うっていくこととしました。

また、2024年4月以降の新たな地方推進体制や、マイカー共済の次期制度改定(2025年4月を目途)等の検討が進められていることから、今後の地方推進体制、保障制度の改定にあたっては、森林労連共済に加入する組合員からの要望を踏まえた制度改定等を行うっていくこととしました。

また、2024年4月以降の新たな地方推進体制や、マイカー共済の次期制度改定(2025年4月を目途)等の検討が進められていることから、今後の地方推進体制、保障制度の改定にあたっては、森林労連共済に加入する組合員からの要望を踏まえた制度改定等を行うっていくこととしました。

林業労働者の確保に向けて

厚生労働省、林野庁交渉を実施

6月11日、2023年森林労連中央行動が東京都で開催されました。

森林労連中央行動には、全国各地から林野労組、全山労の組合員が結集し、全体で61人(森林労連本部14人含む)、森林労連四国地区からは、5人(内2人が全山労組合員で民間現役林業労働者)が参加しました。

1日目は、12日に実施する厚生労働省交渉及び林野

庁交渉に向けた意思統一、結団式が行われ、その後、連合本部の漆原労働法制局長から「外国人労働者の課題と連合の考え方」と題した学習会が行われました。

2日目は、衆議院第2議員会館の多目的会議室で厚生労働省交渉及び林野庁交渉を実施し、林業労働者の確保に向けた雇用対策(新規就業者の定着)について

学習会では、日本における外国人労働者の推移、受け入れ制度(関係法令)、外国人労働者の働き方と課題、そして連合としての考え方について学習を深めました。

2日目は、衆議院第2議員会館の多目的会議室で厚生労働省交渉及び林野庁交渉を実施し、林業労働者の確保に向けた雇用対策(新規就業者の定着)について

学習会では、日本における外国人労働者の推移、受け入れ制度(関係法令)、外国人労働者の働き方と課題、そして連合としての考え方について学習を深めました。

2日目は、衆議院第2議員会館の多目的会議室で厚生労働省交渉及び林野庁交渉を実施し、林業労働者の確保に向けた雇用対策(新規就業者の定着)について

学習会では、日本における外国人労働者の推移、受け入れ制度(関係法令)、外国人労働者の働き方と課題、そして連合としての考え方について学習を深めました。

1日目は、12日に実施する厚生労働省交渉及び林野

庁交渉に向けた意思統一、結団式が行われ、その後、連合本部の漆原労働法制局長から「外国人労働者の課題と連合の考え方」と題した学習会が行われました。

2日目は、衆議院第2議員会館の多目的会議室で厚生労働省交渉及び林野庁交渉を実施し、林業労働者の確保に向けた雇用対策(新規就業者の定着)について

学習会では、日本における外国人労働者の推移、受け入れ制度(関係法令)、外国人労働者の働き方と課題、そして連合としての考え方について学習を深めました。

2日目は、衆議院第2議員会館の多目的会議室で厚生労働省交渉及び林野庁交渉を実施し、林業労働者の確保に向けた雇用対策(新規就業者の定着)について

厚生労働省及び林野庁からは、地域からの意見を踏まえて、行政の施策として検討すべきは検討するとの姿勢が示され、森林労連本部からは、今回の交渉で求めた課題については、引き続き本部段階で取り組みを行うとの決意が述べられ、各地方段階においても本部と連携した取り組みを強化することを全体で確認し中央行動を終了しました。



私の地元である熊本県山都町には、「通潤橋」という大きな石橋がある。この通潤橋がこのたび、国宝に指定されることとなった。熊本県では2件目の国宝、橋としての国宝指定は全国で初めてのこと。国宝の橋となつた郷土の誇りである。通潤橋は、農業用水を送るため、江戸時代に建設された石造りアーチ水路橋。竣工から約170年を経た現在も地域の農耕活動を支えている。その橋も大きな危機があった。2016年の熊本地震では通水管が破損して漏水し、橋上部の石材がズレるなど被災した。18年には大雨の影響で石垣の一部が、建設以来初めて崩落した。だが、その後の復旧をきっかけに橋の調査・研究が進んだことにより、その精緻な石垣と技術的完成度が認められ国宝の指定に結びついたとのこと。災害からの復興、次の世代に繋ぐ重要な遺産がある一方、政府は5月に原子力の最大限活用、原発再稼働の推進と新增設、運転期間制限を60年を超えて運転可能にするGX脱炭素電源法を成立させた。原子力発電で生じる核のゴミの最終処分場が明らかとなつていない問題や、福島第一原子力発電所事故後の救済問題、汚染水の海洋放出問題などの課題を置き去りにしたまま、政策転換を強行している。将来の世代に何を残すのかよく考える必要がある。(あー)

沖縄平和行進

基地の中に沖縄、地上戦の歴史を痛感 沖縄から社会情勢と世界平和を考える

【原口通信員(四万十)】
5月12〜15日の4日間、平和運動センターが主催する「沖縄平和行進」に参加しました。

世界各地の紛争や北朝鮮のミサイル発射など、普段平和について考えることが増えてきてはいるものの、どこか他人事として捉えている自分もいて沖縄の旅に参加し、平和について勉強したいと思いを参加を希望しました。

数のアプチラガマの見学です。戦争下中の当時、病院豪として使われていたアプチラガマで起きていた出来事は、胸が痛くなる程悲惨なことばかりで、悲しいくらい気持ちになりました。

限られた物資ゆえに、回復が見込めない重症患者は、治療を受けられず苦しみが命を絶ち、また重症患者かどうか選別しないといけな医療者の精神的苦痛は、想像しようにも出来ません。

今回の旅に参加して、自分が現在の社会情勢を知らないことに気づきました。米軍基地が日本各地にあること、その内70%が沖縄にあること、年々防衛費の予算が拡大していること、今年公表された防衛費予算が過去最高の増額になっていること。社会情勢を知らない羞恥心もありますが、自分が知らないところで準備が増強されていっていることに恐怖を感じました。

普段平和について勉強する機会や時間、方法も少ないため、今回の沖縄の旅に参加することが出来て本当に良かったです。まだ参加したことのない組合員の仲間にも実際に現地の沖縄で平和について学んでほしいです。

沖縄の米軍基地の規模について



沖縄には、31の米軍専用施設があり、その総面積は1万8483ha。その規模は東京23区のうち13区を覆うものであり、山手線内側3つ分の面積に相当する広大なものとなっています。(画像参考：沖縄県HPより)



沖縄平和行進のため日本各地から結集した参加者

平和行進は今回初めて参加しました。南部コースと中部コースの2コースに分かれて行進を行いました。私が行進した中部コースだけでも1千人ほどの参加者

があり、参加者の多さに驚きました。米軍基地の横も行進しましたが、有刺鉄線が張られた金網のフェンス越しに見える軍用車両や軍用航空機のための長い滑走路は、自分にとっては非日常の景色で異様な光景に見えました。長時間の行進に疲れを覚えたり、行進の意欲について考えたりもしましたが、行進を見ていた現地の方が、家から出てきて手を振ってくれたり、車窓から手を振ってくれたりして貰えた時、歓迎してもらえているのだと暖かい気持ちになりました。

特に今回の沖縄の旅で印象に残っていることは、糸

新入組合員の紹介その2 これからの将来を担う仲間たち

前号に引き続き、林野労組へ加入された、2023年度新規採用者及び選考採用者の仲間を紹介いたします。

Q1 趣味・特技

Q2 職場の第一印象

Q3 今一番興味が

あること

Q4 皆さんへ一言



むらかみ 烈士 23歳

出身地 京都府
出身校 高知大学
勤務箇所 安芸署
治山グループ

Q1 ランニング、スマブラ

Q2 落ち着いていると感じた。

Q3 安芸市のおいしいごはん

Q4 末永くよろしくお願いたします。



こばやし 風賀 22歳

出身地 岡山県
出身校 愛媛大学
勤務箇所 安芸署
総務グループ

Q1 釣り、逆立ちで歩けます

Q2 スーツの人がほとんどおらず、あまり堅そうな職場ではなく安心した。

Q3 安芸市のごで魚がよく釣れるのか。

Q4 読書



いの ひのみ 18歳

出身地 高知県
出身校 小津高校
勤務箇所 局・森林整備課

Q1 読書

Q2 読書、スポーツ観戦

Q3 木を使った備品が多い。

Q4 ドローン



まえだ ゆうすけ 40歳

出身地 徳島県
勤務箇所 局・総務課

Q1 読書、スポーツ観戦

Q2 木を使った備品が多い。

Q3 ドローン

Q4 国有林に関する業務については全く経験したことがありません。



はっとり さわ 48歳

出身地 高知県
勤務箇所 局・治山課

Q1 散歩、映画鑑賞

Q2 社会人としての素養を備えた方ばかりで、雰囲気も非常に良いと感じました。

Q3 娘の英語教育です。

Q4 若輩者ですがどうぞよろしくお願いたします。



いの たくや 42歳

出身地 愛媛県
勤務箇所 局・保全課

Q1 アウトドア、釣り、薪ストーブ

Q2 仲が良い(上司・部下)。

Q3 雰囲気が良い。

Q4 高知の美味しいお店